

2021年度 事業計画書
(2021年4月1日～2022年3月31日)

公益財団法人 アサヒグループ芸術文化財団

2021年度 事業計画書

美術・音楽・舞台芸術の3部門における個人及び芸術団体の優れた意義を有する芸術活動に対して助成支援を行うとともに、アサヒビール大山崎山荘美術館の運営の文化事業を行う。

助成にあたっては、独創性、地域活性化、国内外交流促進、社会へのメッセージ等の観点から対象者を絞り込み、助成先活動を支援する。また、授与式を開催し、選考委員との交流、意見交換の場とする。さらに、選考委員および事務局による活動、公演の視察、評価を実施し、助成の効果を検証することも行う。こうした取り組みを進めることによって、助成先の満足度を高めると同時に、助成事業の価値を一層高め、財団の使命を達成していく。

アサヒビール大山崎山荘美術館の運営については、お客様満足・認知度を高め、魅力を発信するとともに、関係先との連携を密にして、建物の充実も図る。

主たる事業の計画

1. 芸術文化活動への助成

1) 美術、音楽、舞台芸術への助成

2020年度に開催した選考委員会の答申に従い、美術、音楽、舞台芸術の3部門、総計387件（2020年度474件）の案件から、23件に対し総額1,000万円の助成を実施する計画。

2) 日本伝統工芸展への助成

伝統工芸の技術の保存と活用、伝統文化向上に寄与する目的で開催されており、2008年から助成をしている。2021年度は50万円の助成を実施する計画。

2. アサヒビール大山崎山荘美術館の運営

人々が新たな価値観をもち、新たな生活をスタートさせる年として、「お客様にやさげ、癒しの空間と時間を提供する美術館」を目指す。

運営にあたっては、以下6つの施策を柱とする。

1) リスクマネジメント

新型コロナウイルス感染防止対策を徹底すると共に、自然災害、人為災害、業務妨害に対する対応策の総点検と訓練を行う。

2) 展示

当館所蔵品を最大限活用し、テーマ性・ストーリーを持った企画展を実施する。

時期	企画展の名称
春) 3/20～7/4	開館 25 周年記念 夢をめぐる 絵画の名品より
秋) 9/18～12/5	開館 25 周年記念 和巧絶佳展 —令和時代の超工芸
冬) 12/18～3/6 (2022)	開館 25 周年記念 みうらじゅん展

◆開館 25 周年記念 夢をめぐる 絵画の名品より

開館 25 周年を記念して、作品をとりまく「夢」に焦点をあて、当館所蔵品を厳選して公開する展覧会。

19 世紀後半から 20 世紀はじめのパリでは、夢を抱いた芸術家が集い、多彩な文化が次々に花開いた。光に着目して明るい画面に都市生活を活写したクロード・モネら印象派の画家たち、「青の時代」にはじまり、めまぐるしく様式を変化させたパブロ・ピカソ、対象の奥にひそむ精神性を表出しようとしてデフォルメされた身体を特徴とする肖像画に到達したアメデオ・モディリアーニなど、独自の表現を追いもとめた彼らの夢の精華が、のこされた数々の傑作にあらわれている。

美術史上まれにみる激動の時代であった 19 世紀末から 20 世紀初頭のパリにまつわる絵画作品を本展の中心とし、あわせて、かつて白い宝石とよばれ珍重された東洋磁器を夢みて、試行錯誤の末に誕生した 17-18 世紀のデルフト陶器なども紹介する。名品にかくれた、あこがれ、希望、志などの背景をさぐりながら、さまざまな夢をめぐる展覧会構成とする。

◆開館 25 周年記念 和巧絶佳展 —令和時代の超工芸

2020 年パナソニック汐留美術館（東京）を皮切りに、宮崎、京都、名古屋で開催する巡回展。朝日新聞社共催。

展覧会タイトルの和巧絶佳は、現在の日本における工芸的な作品の三つの傾向——日本の伝統文化の価値を問い直す「和」の美、手わざの極致に挑む「巧」の美、工芸素材の美の可能性を探る「絶佳」——を組み合わせた言葉である。

本展では、日本の美意識に根ざした工芸的な作品によって、いま最も注目されてい

る 1970 年代以降に生まれた 12 人の作家を紹介する。

工芸というジャンルにとらわれることなく、工芸素材を用い、工芸技法を駆使して工芸美を探求する本展出品作家の取り組みは、人と物との関係を問い直すとともに、手仕事の可能性のひろがりを感じさせる。

出品作の約 3 割は本展のための新作であり、経験をかさねるごとにその技術に磨きがかかっている一番の新しい表現を展覧する。

◆開館 25 周年記念 みうらじゅん展

「マイブーム」、「ゆるキャラ」の命名者であり、イラストレーター、エッセイスト、ミュージシャンなど、多分野で活躍するみうらじゅん氏（1958-）。

本展では、みうら氏がその独自の感性と視点をもって長い歳月をかけ収集した、ゆるいマスコットキャラクター「ゆるキャラ」、貰っても喜ばれない日本各地の土産物（「いやげ物」と命名）など、みうら氏自ら「マイ遺品」とするコレクションの数々を、みうら氏の故郷・京都に位置するアサヒビール大山崎山荘美術館で一挙に公開する。

会期中はみうら氏に、「マイ遺品」や故郷の思い出などについて語ってもらう講演会を大山崎ふるさとセンターで実施予定。

3) 保管

山本為三郎コレクション、アサヒビール所有コレクションを中心とした当館所蔵品を公共の財産として未来につないでいく。

4) 調査・研究

民藝作品等の当館所蔵品の調査研究をさらに進める。

5) 教育

「地域社会の創造性を高める拠点」としての自覚を持ち、特に京都洛西地区の児童の教育普及活動を行う。

6) 地域社会への貢献

地域活性のプラットフォームとしての役割を果たす。

地域の国宝・文化財施設とのネットワークを強化し、“歴史と文化の里・京都山崎”への観光客誘引の中心的役割を果たす。

◆活動のポイント

○接遇クオリティの向上

受付・喫茶・館内案内・送迎サービス・問い合わせ対応等、接遇のクオリティを向上させる。

○施設整備

お客様の安心・安全、所蔵品の保存、お客様の満足度向上のための施設整備を行う。

具体的には、7～8月にかけて山手館並びに本館2階（喫茶室）の空調工事を行う。

○存在感を訴求する情報発信

マスコミ・京都府・大山崎町との関係づくり・連携を強化すると共に、デジタル広報を強化し情報発信力を向上させる。

主たる事業の予定

2021年度(2021年4月1日～2022年3月31日)

年	月	日	項目	摘要
2021	3	20	大山崎山荘美術館企画展	・開館25周年記念 夢をめぐる 絵画の名品より (～7月4日)
	4	8	2021年度助成授与式	
	6	上旬	理事会	・2020年度事業報告、計算書類等承認の件
	6	下旬	定時評議員会	・2020年度事業報告の報告、計算書類等承認の件
	9	18	大山崎山荘美術館企画展	・開館25周年記念 和巧絶佳展 ―令和時代の超工芸 (～12月5日)
	11	1	2022年度芸術文化活動助成公募開始	募集期間：～11月30日
	12	18	大山崎山荘美術館企画展	・開館25周年記念 みうらじゅん展 (～3月6日)
2022	1	下旬	芸術文化活動助成選考委員会	・2022年度芸術文化活動助成案件の選考(～2月)
	3	上旬	理事会	・2022年度事業計画・収支予算の承認の件 ・2022年度芸術文化活動助成選考結果承認の件

以上